

科目コード	科目名	単位数
0011	哲学	4単位

教材コード 000404

教材名 『西洋思想の要諦周覧』

(学習指導書別冊)

著者名等 嘉吉 純夫・齋藤 隆

■教材の概要

この教材は、哲学的思考の類型によるカテゴリーと、その本質的諸部門とを融合させて西洋思想史の流れを古代ギリシャから現代の科学哲学まで論じられている。従って、この教材を通読すれば、大学における総合科目「哲学」で講じられている問題を考える上で不自由しないものであろう。教材の詳細な内容に就いては、「はじめに」に記載されているので参照してください。

■学習計画のポイント

ページ 10～92

「課題」のテーマから明らかのように第1章を中心に学習する事。

ページ 93～251

認識論を考察するので、第2章を中心に学習する事。

■学習上の留意点

大学の学習は、与えられた教材のみを用いて書けば良いものではない。多くの本を読むことで、自分の考えと同じものや、対立するものもある事を知るのも本当の勉強である。それらを参照しながら書く努力も必要である。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0012	論理学	4 単位

教材コード 000002

教材名 論理学

著者名等 曾田 範治

■教材の概要

論理学とは、議論の進め方についての規則を求めるものである。議論の進め方を推理というが、推理を内容に即して考えるのではなく、論理形式に直して（形式論理学）その正誤を判定する。推理をいろいろな形に分類し、推理の種類ごとに規則をつくるが、各推理の正しい定義を正確に理解しなければならない。また論理学としての特有な用語が数多く出てくるから、それらにも注意する必要がある。論理形式（推理）を記号で表現する。

■学習計画のポイント

ページ 1～154

1～94 ページ

論理学の目的は推理の規則であるが、推理は判断より成立し、その判断は概念により成立する。序説～第2章では概念と判断を学習する。とくに判断について1つ1つの用語を正確に理解してもらいたい。

95～154 ページ

推理を直接推理と間接推理に分け、直接推理には2種類、間接推理には5種類がある。それぞれ異なる規則が成立するから、混同しないように。概念と判断の知識が前提になることはいうまでもない。

ページ 155～246

155～200 ページ

帰納推理と類比推理を学習する。第3章～第9章の推理は論理形式によって推理したが、それらは経験的事実を土台にして推理する。これまでの推理とくらべながら学習するとよい。日常生活によく表れる。

201～246 ページ

学問に対する研究方法を学習する。因果関係、帰納的因果法、定義、分類、論証が中心である。それらの相互関係をしっかりと理解しなければならない。第3章～第14章が土台になることはいうまでもない。

■学習上の留意点

- ① 各推理の定義を一覧表にする。
- ② 各推理の規則の一覧表をつくる。
- ③ 各推理の法則を実際の推理の中に適用する。

■参考文献

『論理学入門』（岩波全書）近藤洋逸・好並英司著（岩波書店）

『論理学』小林利裕・寺中平治・米沢克夫著（サンワ・コーポレーション）

科目コード	科目名	単位数
0013	倫理学	4 単位

教材コード 000405

教材名 『21世紀の倫理』

(学習指導書別冊)

著者名等 笠松 幸一・和田 和行 編著

■教材の概要

本教材『21世紀の倫理』は、大きく捉えると、伝統的な倫理（第1章 倫理の歴史）と新興の応用倫理（第2章 生命倫理、第4章 メディア社会の倫理、第5章 グローバル化時代の倫理）から成り立っています。特に本教材は、生命や環境や情報に関する諸問題を取り扱う応用倫理（学）について重点的に学んでいただくことを趣旨としております。

倫理・倫理学の目的とは、伝統的倫理であれば応用倫理であれ、人間（私たち・私）の行いの正邪悪を究明するとともに、その正なる、善なる行いを実践するところにあります。

■学習計画のポイント

ページ 1～144

- ① Ethics（倫理・倫理学）の語義、実践、変容性等について理解してください。
- ② なぜ現代社会において応用倫理が誕生したのか、その誕生の経緯を生命と環境に着目しつつ理解してください（第1章の4）。

ページ 145～246

- ① 電子メディア（コンピュータ）によって開かれてくるメディア社会、グローバル化時代、そこに生じてくる問題を把握してください。
- ② 電子メディアがもたらす問題を、活字メディア（新聞、書物、等）と比較する観点から把握してください。

■学習上の留意点

- ① 倫理・倫理学は、古代、中世、近代、現代それぞれの時代（社会）における要請とともに展開してきました。
- ② 近代の倫理は、人間の倫理的能力に信頼を置いて、従って人間中心主義の倫理として、また市民社会における「契約」を可能にする倫理として展開してきました。

■参考文献

各節の文末に指示される文献を参考にしてください。

科目コード	科目名	単位数
0014	宗教学	4 単位

教材コード 000004

教材名 宗教学

著者名等 奈良 弘元

■教材の概要

宗教学は、宗教のあるがままの姿（事実）を明らかにし、宗教についての正確な知識の体系を築きあげようとする学問である。したがって、その学的性格から、テキストは、まず、宗教についての歴史的事実を正しく把握することにつとめた。テキストの構成は、「宗教は人類の歴史とともにはじまる」、「私たちの生活と宗教とのかかわり」、「私たちをとりまく宗教の諸相」、「私たちのまわりから消えてしまった宗教」及び「私たちに身近な宗教の思想」からなる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ~ 104

1 ~ 55 ページ

各儀礼の特徴点の理解。宗教芸術、宗教文学についての具体的な作品の理解。世界宗教としてのキリスト教とイスラム教との歴史的事実の理解。両宗教の共通点と相違点との比較検討。キリスト教については、宗教の思想の項も参照されたい。

57 ~ 104 ページ

世界宗教としての仏教、民族宗教としての各宗教の歴史的事実の把握。特に、ヒンドゥ教・ジャイナ教・シク教と仏教の比較、ユダヤ教とキリスト教との比較、神道の歴史的展開と儒家・復古・教派の各神道の特徴の理解。

ページ 105 ~ 199

105 ~ 163 ページ

未開宗教の特徴点の理解と、その現代社会への影響の理解。古代宗教（消えてしまった宗教）のそれぞれの特徴点の理解。キリスト教思想の基礎的理解。特に、イエス、パウロ、ルターの比較検討。

165 ~ 199 ページ

初期仏教・部派仏教・大乗仏教の思想的相違点の理解。大乗仏教の諸思想の特徴の理解。神道思想の基礎的理解。特に「敬神生活の綱領」の内容理解。教派神道各派の思想的特徴の理解。

■学習上の留意点

「学習計画のポイント」をふまえて、その内容をしっかりと把握し、理解しておくこと。

■参考文献

巻末の主要参考文献中、特に『世界の宗教』岸本英夫著（原書房）、『世界の宗教と經典 総解説』（自由国民社）、『宗教学辞典』（東京大学出版会）を参照のこと。

科目コード	科目名	単位数
0015	歴史学	4 単位

教材コード 000393

教材名 歴史学

著者名等 高綱 博文・竹中 真幸・藤井 信行・馬渕 彰・柏谷 元・渡邊 浩史・郡司 美枝・須江 隆・鍋本 由徳

■教材の概要

本教材は、古代から近代にいたる歴史を日本史・東洋史・西洋史の3分野から論述したものである。本教材の大きな特徴は、従来の「通史」とは異なり、人物の動向を中心にしながら歴史を考えることを目的としていることである。「第1単位」は日本中世・近世史、「第2単位」は日本近代史、「第3単位」は中国史・西洋中世史、「第4単位」はイスラーム史・西洋近代史である。本教材は人物を中心に編まれているが、これはいわゆる「伝記」ではない。彼らがどのような時代に生き、その時代の中でどのような理念を持って活動していたのかを考えもらいたい。

これまでの通史的歴史学に馴れた人にとっては、つかみどころのないものに感じるかもしれないが、本教材を学習することによって、地域性・時代性を考えていくことが第一の目標となる。

■学習計画のポイント

ページ 1 ~ 82

第1単位 (1 ~ 56 ページ 渡邊浩史・鍋本由徳)

第1部では、安倍晴明、一遍、道成寺縁起絵巻を扱い、日本中世における熊野を中心とした文化装置について考察する。信仰・伝説などから当時の政治・社会への影響を考えていく。

第2部の日本近世史では、徳川吉宗、大岡越前、田中休愚を扱い、日本近世の転換点である享保期について考察する。いわゆる「享保改革」の評価について多角的に考えていく。

第2単位 (57 ~ 82 ページ 郡司美枝)

第3部では、明治天皇、乃木希典、石田信吉を扱い、明治時代の政治・社会の動向について考察する。彼らの日常生活から、日露戦争前後の人々の思いや暮らしを考えていく。

ページ 83 ~ 211

第3単位 (83 ~ 161 ページ 高綱博文・須江 隆・馬渕 彰)

第4部では、岸田吟香、荒尾精、内田完造、林京子などを扱い、19世紀中葉以降の上海日本人居留民の歴史を考察する。上海体験の証言などから、当時の人々の生き方を考えていく。

第5部では、蘇舜欽、方臘、林二十三娘を扱い、中国宋代の社会を考察する。唐宋変革期における官僚制度の実態や、反乱、言説などから、士大夫文化・庶民文化の融合などを考えていく。

第6部では、ウェスレー、アレヴィ、スティーブンズを扱い、産業革命期のイギリスにおけるキリスト教と社会の展開について考察する。メソジスト派をキーとして、当時の社会問題を考えていく。

第4単位 (162 ~ 211 ページ 柏谷 元・藤井信行)

第7部では、アタユルク、ヌルスキー、ベイを扱い、19世紀におけるトルコについて考察する。イスラーム文明からヨーロッパ文明への移行にともなうトルコの抱えた問題について考えていく。

第8部では、エーレンタール、ベルヒトルト、カイザー、グレイを扱い、第一次世界大戦期のヨーロッパを考察する。イギリス・ドイツ・オーストリアの外交政策から大戦勃発の要因を考えていく。

■学習上の留意点

本教材は「伝記」とは異なる。学習にあたっては、各章末に挙げられた参考文献などにも目を通すとともに、各国の通史を学習し、地域・時代の概略を併行して理解しておくことが望まれる。リポート課題作成にあたっては、その時代のあり方に着目することが重要である。

■参考文献

各章末に【参考文献】を記した。時代概観は、日本史であれば『日本の歴史』(中央公論新社・講談社、他)、外国史は『世界の歴史』(中央公論新社、他)などを参照してもらいたい。

科目コード	科目名	単位数
0016	文化史	4 単位

教材コード 000308

教材名 『日本文化史（第二版）』

著者名等 家永 三郎

■教材の概要

本書は、原始社会から封建社会解体期までの日本文化の歴史についての概説書である。「文化」という言葉の意味は非常に幅広く多様であるが、本書ではその点を踏まえつつも、「文化」という言葉から一般的に想起されるところの、学問・芸術・宗教・思想などの領域を論述の対象としている。もとより、本書は概説書であるので、上記の各分野についても詳細な内容が論じられているわけではないが、私たちの祖先が創造し、継承してきた日本文化の特質について通史的理解を得る上で利益な書といえよう。

■学習計画のポイント

ページ 1 ~ 111

I 原始社会の文化～IV 貴族社会の文化の4章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、先土器（旧石器）・縄文・弥生・古墳（大和）・飛鳥・奈良・平安の各時代であり、時代的には極めて長期にわたっている。したがって（後述にも共通していえることであるが）まず、日本史全般にわたる上記各時代の特質や、前・後代との関連性などを概説書・通史類を読んで把握しておくべきである。その上で本分冊を読めば、その記述内容に対する理解がよりいっそう深められよう。なお、本書冒頭の「はじめに 日本文化史の課題」についても熟読しておくように。

ページ 113 ~ 244

V 封建社会成長期の文化～VII 封建社会解体期の文化の3章で構成されている。一般的な時代区分でいうと、鎌倉・室町（戦国）・安土桃山・江戸の各時代である。前述が扱う時代に比較して、本分冊のそれは約700年と短いものの、文化の多様さと裾野の拡がり（文化の作り手と受容者）や、文化史に関する遺物・文書・記録類の残存量などを考えると、学習すべき対象は非常に多いといえよう。したがって前述と同様、日本史全般にわたる概説書・通史とともに、文化史各分野（思想史・美術史・科学史など）の概説書・通史にも目を通して学習することが必要であろう。

■学習上の留意点

「教材の概要」の欄で記したように、本書は日本文化史に関する概説書であるから、各時代の文化や文化の各分野について詳細な記述はなされていない。したがって本書で文化史を学習する際には、まず全体を通して読し、さらにその上で不明・疑問点や、より詳しく学ぶべき事項があれば、下記の参考文献他に目を通し、正確かつ詳細な知識を得るよう努力すべきである。

■参考文献

『国史大辞典 1 ~ 15巻』（吉川弘文館）

※『日本通史 1 ~ 21巻・別巻1 ~ 4』（岩波書店）

『日本文化の歴史』尾藤正英著（岩波書店）〈教材巻末の参考文献一覧も参照のこと〉

『体系日本史叢書 15 ~ 23巻』（山川出版社）

科目コード	科目名	単位数
0017	文学	4単位

教材コード 000406

教材名 『文学概論』

(学習指導書別冊)

著者名等 吉田 精一

■教材の概要

「文学とは何か」という問い合わせに対して、本書は「詩」「小説」「戯曲」「評論」という各ジャンルについて「何か」「種類」「構成」「特性」「鑑賞」の視点で説明します。その上でそういった「文学」の「本質」について追求します。具体的な事例に即しながら展開されます。

■学習計画のポイント

ページ 7～160

各章において「詩とは何か」「小説とは何か」「戯曲とは何か」「評論とは何か」という問い合わせから始まり、最終的に第2分冊の「文学とは何か」「文学の本質」に迫ろうとしています。

ここでは、各章ごとに種類を分類し、語と形、構成や構造の上から実証的に説明してあるので項目ごとにまとめてみることが大切です。

ページ 161～201

ここでは「文学の本質」が検討されています。そのためには

- ① 文学とは何か
- ② ことばの思想
- ③ イメージと想像力
- ④ 文学と人生

の4項目が考察されています。それぞれの内容・要旨を把握して、全体の構成、展開から、さらに「文学の本質」とはどのようなものが著者の主張だったのかを理解するようにしてください。

■学習上の留意点

第1分冊では、さまざまな文芸用語や作家、作品が出てきますが、第一回目の読みは、あくまでも項目の見出しをキーワードに読み取ることが大事です。第二回目の読みからは、いろいろ調べて読んでみてください。

第2分冊では「文学（学習指導書）」を参考にしつつ巻末の「解説」もよく読んでください。

■参考文献

- 『文学入門』桑原武夫著（岩波新書）
- 『文学とは何か』加藤周一著（角川選書）
- 『小説の方法』伊藤整著（岩波書店）
- ※『文学入門』阿部知二著（市民文庫） 他

科目コード	科 目 名	単位数
0019	美術史	4 単位

教材コード 000310

教 材 名 『カラー版 日本美術史』

(学習指導書別冊)

著 者 名 等 辻 惟雄 監修

■教材の概要

本書は日本美術の流れを時代別にまとめた概説書で、彫刻、絵画、工芸といった美術のジャンルを総合的に扱っている。第Ⅰ章 先史・古墳時代からはじまり、第ⅩⅢ章 現代にまで及んでいる。また、巻末の年表及び付録もあわせて参照されたい。

■学習計画のポイント

ページ 5 ~ 52

縄文時代から奈良時代までを扱うが、特に第Ⅱ章と第Ⅲ章の飛鳥・白鳳・天平時代の仏教美術を重点的に学習すること。この時代は仏像が美術の中心的存在であるので、飛鳥・白鳳・天平の各時代の代表的仏像様式の特徴を理解し、その変遷を把握することが重要である。また絵画、工芸に関しては、教材で取り上げている作品について、その特色を把握してほしい。

ページ 53 ~ 100

平安・鎌倉・南北朝時代を扱う。彫刻については平安前期・平安後期・鎌倉の各時代の様式や技法上の特徴を理解し、その変遷を把握すること。絵画については、密教絵画や来迎図などの仏教関係の作品を重点的に学習し、あわせて絵巻物や肖像画など、この時代の代表的作品について幅広く学んでほしい。

■学習上の留意点

- ① 美術作品のみを見るのではなく、歴史的背景や特に中国様式の伝播の状況についても視野に入れることが美術史を理解する上で重要である。
- ② 代表的作品については図版を参照して、自分の目で確認しつつ様式を理解すること。

■参考文献

本書の付録の「参考文献」を参照。そのほか入手しやすいものとして以下のようない概説書がある。

『日本仏像史』水野敬三郎 監修 (美術出版社)

『目でみる仏像』星山晋也・田中義恭著 (東京美術)

科目コード	科目名	単位数
0021	法学（日本国憲法2単位を含む）	4単位

教材コード 000394

教材名 法学

著者名等 廣田 健次・船山 泰範・松島 雪江

■教材の概要

本書は基礎的な法律用語や法の歴史、構造、性質などについてまとめられた概説書である。法律学の全体像に概観することによって、これから専門的に法律の勉強を進めようとする時の基礎になると同時に、必ずしも法律を専攻するわけではないが、一市民として知っておくべき「法とは何か」を学ぶための入門書ともなる。

総論部では、法学とはどのようなものかを整理しながら俯瞰して、いくつかの問題点も提示されている。各論部では、総論部での知識に基づき、積極的に法を用いる主体としての読者を想定し、単に「法によって規制される私達」のみならず、「法によって社会に積極的に関わっていく私達」を模索している。法学は決して完成され完結された世界ではない。今後法律を専攻する人もそうでない人も、ここを出発点にして新たな世界に踏み出していってほしい。

■学習計画のポイント

ページ 1～138

総論部では、それぞれの章が密接に関係しあいながら法学の全体像が示されている。ページ順に読み進み、脚注や関連したページが記されていれば、厭わずに参照してほしい。法律学は言葉の学問とも言われる。専門用語の定義をきちんと理解しながら読み進めることが肝要である。

ページ 139～219

それぞれの章が独立したトピックを扱っているので、必ずしも順を追って読み進めていく必要はない。日常生活と密接に関係する事柄が豊富に扱われているので、時折立ち止まって関連する時事問題や新聞・雑誌の記事なども参照していけば、より立体的な法学の把握に役立つであろう。

■学習上の留意点

法律用語をきちんと理解すること、提示されたトピックが他の領域とどう関連しているかを常に意識すること、またそれがどのような問題性を持つのかを考えながら読み進めてほしい。1章読み終えるごとに、その章の概要を簡単にノートにまとめる作業を行うことを薦める。

■参考文献

『新法学入門』山川一陽、船山泰範編著（弘文堂）

『法学入門』三ヶ月章著（弘文堂）

『現代理論法学入門』田中成明編（法律文化社）

なお、法律用語について分からぬものがあるときは以下を参照すると良い。

『有斐閣法律用語辞典（第3版）』法令用語研究会編（有斐閣）

科目コード	科目名	単位数
0022	社会学	4 単位

教材コード 000433

教材名 『社会学講義—人と社会の学—』

著者名等 富永 健一

■教材の概要

社会学の世界を基礎理論から領域社会学まで、体系的に理解することを目的としている。

社会学的方法論・思考を明らかにし、社会学的に考えることを本教材はめざしている。

社会学とは何か、社会学の基礎理論、概念規定を理解してもらう。基礎理論として、社会的行為、社会関係、集団など、社会を構成する基礎をまなぶ。さらに、家族、農村・都市、産業など領域社会学をとおして、より具体的な問題解決を導き出している。

■学習計画のポイント

ページ 4～155

- ① 社会学の考え方を学習する。社会学の基礎理論を考える前提となる。
- ② 理論社会学として、行為・相互行為、集団などの過程を人びとの身近な環境からみる。
- ③ ミクロからマクロ、社会学の広がる世界を理解していく。

ページ 158～258

- ④ 基礎理論から領域社会学へと進み、今日の社会において生じる、さまざまな問題の解決方法考える。
- ⑤ 日常生活にかかわる問題点、疑問点をカテゴリー化し、領域社会学に該当させてみる。
- ⑥ 領域社会学の成果から、学生個人の研究テーマや関心などを広げていく。

■学習上の留意点

- ① 社会学とは何か、社会との関係、社会学の概念を理解する。
- ② 行為の視点から広がる世界を考える。
- ③ 日常おかれている状況のなかで研究テーマを考える。
- ④ 自らの研究領域を確立し、社会学的方法論によって分析を試みる。

■参考文献

教材の参考文献からみつけてください。

科目コード	科目名	単位数
0023	政治学	4単位

教材コード 000279

教材名 政治学

著者名等 阿部 竹松・秋山 和宏・関根 二三夫

■教材の概要

本教材は、受講生が民主主義国家における政治制度についての理解と教養を高めるために役立つのみならず、政治についての実践的な知識を深めるためにも役立つように企画されている。本教材の特徴は、政治理論に関する解説を簡素化して、実学として政治を理解できるように、議会、内閣、裁判所、その他の行政機構などの政治組織や国民が直接政治に関与する選挙、政党、圧力団体などの政治過程に重点を置いて解説を試みている点である。

■学習計画のポイント

ページ 1 ~ 101

① 政治と政治社会

政治現象を生み出し、特徴づけているものは、社会、人間、紛争、権力である。政治権力という高度に組織された強制力、制裁力で危機を回避し、社会を安定的に保持しようとする働きが政治である。特に権力との密接な不可分性に着目して、政治を権力の形成・行使・維持に関わる現象を学ぶことである。また、政治現象は、国家と社会との関連において生ずる。特に近代市民社会以降の社会現象の推移と国家との関連を理解していただきたい。

② 近代の政治思想

近代ヨーロッパの政治思想家を中心に彼らの政治哲学の諸原理について簡明に解説してある。それらの理論を社会背景を念頭において考察することが肝要である。

③ 現代の政治過程

選挙、政党、圧力団体を研究対象とする政治過程論は、政治を実施するために設けられた政治制度やその枠外で作用している政治慣行や利害関係を研究対象としている。そして、政治の実態を科学的かつ実験的に捉えている。科学的・実験的とは、仮説を立て、対象を客観的に観察し、仮説を検証する法則を設定することである。この点を肝に銘じて勉強して欲しい。

ページ 105 ~ 208

① 立憲民主制の統治形態

民主政治制度では、例外なく、統治権が分散されている。立法、行政、司法の三権がどのように分散され、三権がどのような抑制関係にあるかによって、政治形態が分類されている。アメリカの大統領制や日本の議院内閣制を皮切りに各国の政治形態を権力の分散の尺度で検証することを推奨する。

② 国家の統治機構

わが国の政治機構を国会、内閣、裁判所に分けて、各々の組織と権限について解説してある。しかし、上記の三機関の権限は、相互に関連している。アメリカ連邦政治機構の下での権力の配分や抑制関係と比較して検討すると、わが国の政治を理解するのに役立つ。

■学習上の留意点

政治学の研究課題は、相互に関連しているので、関連分野の課題についても検討することが求められる。例えば、内閣の権限について検討するときは、同時に国会の権限にも目を通すことが肝要である。

■参考文献

教材に記載されている参考文献を参照されたし。

科目コード	科目名	単位数
0024	経済学	4 単位

教材コード 000450

教材名 経済学

著者名等 藤本 訓利・植木 恒夫・塚本 隆夫

■教材の概要

この教材は、経済学に興味を抱き、初めて経済学を履修しようとする学生諸君のために書かれたものである。現実の経済がグローバル化し、また複雑化しているので、このような現象を理解するためには幅広い経済学の知識が必要となる。しかし、この教材では、経済学とはどのような学問であるか、経済学の考え方や歴史などの経済学の導入部分、消費者や生産者（企業）の行動を理解するための基本的な理論（マクロ経済学）、一国経済の動きを理解するための基本的な考え方や理論、そして財政・金融策の効果など（マクロ経済学）が説明されている。

■学習計画のポイント

第1部：社会科学としての経済学は、どのような科学・学問であるかを理解する。経済学者たちがどのような世界を捉え、希少性に対処しようとしているのかを理解する。この視点から、①何をどれだけ生産するのか、②どのようにして生産するのか、③誰のために生産するのか、という経済の基本問題に対する考察がなされる。

第2部：消費行動では最適消費計画を、生産者行動では利潤最大化（費用最小化）を理解し、経済主体の選択が需要や供給を決めている点を理解する。完全競争市場、不完全競争市場における価格決定と資源配分が社会的総余剰と関わることを理解する。市場メカニズムと市場の失敗や政府の介入の意味を理解する。

第3部：マクロ経済学の特徴や分析方法やマクロ経済変数について理解したうえで、国民所得の諸概念や三面等価の原則などマクロ経済学の基礎的な概念について理解する。これらの概念を用いて展開される国民所得の決定理論や投資の乗数効果を理解する。さらに、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係について理解する。財政政策や金融政策が、一国の総需要や総供給を管理するための重要な手段であること、IS = LM モデルを使って財政・金融政策の効果を理解すること。

■学習上の留意点

第1部：経済学の基本的な考え方である希少性の法則、効率的な生産、市場メカニズムの基本的な機能をめぐるグラフと数式を用いた論理展開になること。

第2部：消費者行動と効用の最大化、生産者行動と利潤の最大化によって需要曲線や供給曲線が導出されている。効用最大化と消費者余剰、利潤最大化と生産者余剰の関係を整理し、社会的総需要の観点から様々な市場形態や政府の活動を理解する。

第3部：国民所得の諸概念や三面等価の原則など一国の付加価値を算出する際の基本的な考え方や、一国の生産水準が決定される理論的メカニズム、公共投資の経済的効果（乗数理論）などのマクロ経済学の基礎理論を理解する。また、貨幣の役割や貨幣とマクロ経済との関係や、財政政策・金融政策のマクロ経済的効果を伝統的なマクロ経済学の分析手法を用いて理解する。

■参考文献

教材の「学習指導書」を参照して下さい。

科目コード	科目名	単位数
0031	数学	4 単位

教材コード 000339

教 材 名 『教養の数学（改訂版）』

著 者 名 等 矢野 健太郎

■教材の概要

現代社会において活用されている数学は大別して2つあるといってよい。それは、解析幾何学と微分積分学が発見された17世紀の伝統をひいた古典数学と、この範ちゅうにはまらない現代数学である。勿論、これらはどちらも重要であるが、この教科書は現代数学に焦点をあてて書かれたものである。したがって、いかにも数学といった感じのする微分積分学の解説は殆んどなく、専ら、身近な問題を定式化し発展させる事項が多く解説されている。

■学習計画のポイント

ページ 1 ~ 116

1 命題、2 集合、3 ベクトルと行列、4 群。各章において現代数学を記述する言葉と事実が解説されている。特に命題と行列の項はよく勉強することが望ましい。

ページ 117 ~ 197

5 線型計画法、6 確率、7 ゲームの理論が解説されている。私達の日常生活の中で線型計画法を用いて解決できる問題は数多くある。例題を読んで、よく理解して欲しい。また非常に多くの応用をもつ確率というものを学んでいく。7 ゲームの理論は余力があり、興味があれば読み進めるという程度で良い。

■学習上の留意点

リポート課題に真剣にとりくみ、納得できるまで教科書を読むことです。また教科書の演習問題にあたることは事柄の理解の上で不可欠なことです。

■参考文献

特にありません。教科書をよく読むことが第一です。

科目コード	科 目 名	単位数
0034	生物学	4 単位

教材コード 000434

教 材 名 『人の生命科学（第3版）』

著 者 名 等 佐々木 史江・堀口 育・岸 邦和・西川 純雄

■教材の概要

21世紀にはいってヒトゲノムの解読がほとんど終了するという現在、生命科学、医学、医療の研究や技術の開発は、急速な発展をとげている今日、生物学の目標は科学的、論理的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動の基礎を教育の目標に、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解して、さらに国際化および情報化社会に対応出来る能力を要請することである。これらをふまえて、科学的思考の基礎や人間生活へのかかわりをこの教科の目標として地球生物圏の生物集団から生命の単位としての細胞の構造と機能、個体の構成と機能、生命活動とエネルギー、遺伝情報（DNA）の働き、化学進化・原始生命の誕生、生態系の仕組みにおける人間活動と地球環境問題等環境問題までさぐりつつ環境問題の全体像として、思考力を高め具体的に明日の環境と人間、地球を守る科学的知恵とし、こうした認識の基にライフサイエンス（Life Science）「生命科学・生活科学」を含めて生命の基本的理解を深めて、環境問題を政治・経済・社会・文化の影響も考えて『安全性』という科学的判断基準だけでなく『安心感』という心理的な側面を同時に考え持続可能な発展が広くキーワードになるように日常生活との関連を重視しながら生物学という学問の性格を理解して学習してほしい。

■学習計画のポイント

- ① 教材の各章の研究課題とコラムを理解しておくと良い。
- ② リポート課題は参考文献を利用してまとめることが必要である。

■学習上の留意点

特になし。

■参考文献

- 『基礎から学ぶ「生物学・細胞生物学』』和田勝著（羊土社）
『「生命科学」改訂3版』 浅島誠監修 東京大学生命科学教科書編集委員会（羊土社）
『「明日の環境と人間」地球をまもる科学の知恵 改訂3版』河合信一郎・山本義和共著（化学同人）

科目コード	科目名	単位数
0035	心理学	4単位

教材コード 000483

教材名 『新しい心理学ゼミナール—基礎から応用まで—』

著者名等 藤田 主一・板垣 文彦 編

■教材の概要

心理学は、広く心や行動を対象にする大変魅力的な学問です。心を追究し解明したいという願いは、私たちに共通したテーマです。それでは心とは一体何でしょうか。心はどこまで明らかになっているのでしょうか。今日、さまざまな分野において科学の力を結集し神秘的な心の世界に迫ろうとしています。心理学はその中心です。

この教科書は、最新の研究成果を取り入れた心理学の書物です。本書のサブタイトルは「基礎から応用まで」です。心の世界を基礎と応用に分けること自体が奇妙な印象を受けるかもしれません、基礎と応用が相まって心の解明に結びつくのです。本書は全部で12章から構成され、各章は今日の心理学が対象とする領域を体系づけて取りあげています。学生の皆さんのが1人で読破することができるようわかりやすく説明されています。

■学習計画のポイント

心理学の領域は多岐にわたっていますので、本書のどの章からでも学習することができます。まずは読み進んでください。なお、本書の巻末には参考文献が掲載されていますので、さらに発展的な学習を希望する方は挑戦してください。各章の最後には話題性豊かなトピックスも挿入されています。

1章～3章 (9～51ページ)

ここでは発達・知覚・性格の心理学を取りあげています。まずは発達の流れを理解してください。それぞれの発達段階には特徴があります。知覚の心理学では、私たちの外界のとらえ方を実験的に確認することができます。性格の心理学では、性格形成の要因などを説明しています。

4章～6章 (52～94ページ)

ここでは、認知・学習・感情と欲求の心理学を取りあげています。認知の心理学は少しハードな内容ですが、脳の働きを解説するうえで重要です。学習の心理学では、なぜその行動が身につくのかを解説しています。感情と欲求の心理学では、情動の表出や適応の問題を説明しています。

7章～9章 (95～140ページ)

ここでは、臨床・社会・犯罪の心理学を取りあげています。応用的な内容は、関心を持つ方が多いと思います。健康の課題や心理療法にどのようなものがあるのか、社会の中で人間はどのようにかかわり合っているのか、犯罪はどのようにして起こるのかなどについて、具体的な観点から説明しています。

10章～12章 (141～183ページ)

ここでは、環境・スポーツの心理学、心理学史を取りあげています。私たちと生活環境とは大変密接な関係があります。環境との調和と言ってもよいでしょう。スポーツの心理学では、スポーツと健康、メンタルトレーニングなどを解説しています。心理学の歴史は、心理学が現代にいたるまでの経緯を説明しています。

■学習上の留意点

心理学には多くの理論があります。また、その理論に関係する多くの学者の名前が登場します。最初は戸惑うこともあると思いますが、心理学に興味を持つ方はなんなくクリアできます。教科書には、現代心理学のエッセンスが網羅されています。ひとつひとつのテーマには、きちんとした科学的な根拠が内包されていますので、科学的な視点で人間をとらえる方法を学んでください。教科書の内容では十分に満足できない方、もっともっと専門的な勉強に取り組みたい方、心理学の研究に挑戦したい方は、各領域の専門書や研究書へ進んでください。また、辞典や事典で確認することもできます。

■参考文献

- 『心理学辞典』中島義明他編（有斐閣）
- 『応用心理学事典』日本応用心理学会編（丸善）
- 『社会心理学事典』日本社会心理学会編（丸善）
- 『産業・組織心理学ハンドブック』産業・組織心理学会編（丸善）
- 『パーソナリティ心理学ハンドブック』日本パーソナリティ心理学会企画（福村出版）
- 『心理学総合事典』海保博之他編（朝倉書店）

科目コード	科目名	単位数
0036	統計学	4 単位

教材コード 000018

教材名 『新統計入門』

著者名等 小寺 平治

■教材の概要

統計学を難しく考えるのではなく、統計学の基本を充分に理解し役に立つ学習も目指します。理論を詳しく述べるよりは、例題を通じて統計学を利用することで、何が理解できるかを重視します。問題が解けるようにならなければ統計学の理論は理解できませんが、問題解決の実力を養うには、定理や公式を記憶するのではなく、多くの問題を考えることが大切です。本教材は、統計学を大きく分けて、収集されたデータ分析を目的とした記述統計と少ないデータから問題を統計する近代統計学と言われる推計学とに分かれています。本教科では、楽しい統計学を学ぶことが目的です。

■学習計画のポイント

ページ 1～71

1～31 ページ

統計学の基本となる記述統計学として必要な諸統計量として、度数分布、代表値・散布度、平均・分散そして相関係数の意味を理解し、練習問題を通じて具体的な統計学の利用方法を学習します。

33～71 ページ

近代統計学の基礎は、いわゆる推計学と言われ、統計データをどのような性質を有しているかを推測することになります。つまり、起き得ること（確率）を推測し起き得るデータの集団はどのような形をしているかを知る必要があります。そのためには確率変数、2次元確率変数、二項分布・正規分布等を学習する必要があります。

ページ 73～131

いわゆるサンプリングと言われる分野です。つまりデータの一部から全体を知る方法を学びます。次に、平均あるいはデータのバラツキから全体を推計するための区間推定とは何か。更に、「もしかしたらそうかもしれない」と言う仮説が正しいか否かを検定する方法を学びます。

近代統計学の極意を知る最も興味のある領域です。

例えば寿命をある区間で推計する場合に用いる母平均・母分散、実際に計ったデータと推計された値とのズレあるいは適合度などについて学びます。

■学習上の留意点

統計学は実際に利用して役に立たなければ意味がありません。そのためには、理論を通じてセンスを磨き、問題を解くことで利用する方法を確立することが大切です。教科書を自身で理解し、例題を自身で解き、課題に挑むことになります。他に、コンピュータを利用した統計解析のためのソフトウェアとしてよく知られているExcelについても自身で機会を見つけて挑んでください。

■参考文献

難しい数式を追いかけるのではなく、問題を通じて利用方法を学ぶことが目的です。参考文献は、例題が多く出ている統計学の本を参考にしてください。

『はじめての統計学』鳥居泰彦著（日本経済新聞出版社）

※『詳解確率と統計演習』鈴木七緒著（共立出版）

※『Excelでわかる統計入門』清水理著（ナツメ社）

科目コード	科目名	単位数
0037	科学史	4単位

教材コード 000398

教材名 『改訂新版 思想史のなかの科学』 (学習指導書別冊)

著者名等 伊東 俊太郎・広重 徹・村上 陽一郎

■教材の概要

本書は科学史を5つの大きな変革期にわけ、それぞれの特徴をわかりやすく解説している。特に古代オリエント科学から始まり、哲学革命を経て近代科学をつくりあげた科学革命、さらにその科学が発展し現代科学に至るまで、各時代の科学思想や方法・手段に触れて説明している。科学現象の説明には数式はほとんど用いず、代わりにその科学現象が発見された経緯や後世に与えた影響について説明している。また、本書のプロローグおよびエピローグは座談会および討論会形式で書かれている。ここでは三名の著者の科学に対する考え方を知ることができ、本書の内容を理解する上でも大変役立つ。

■学習計画のポイント

ページ 11～164

古代オリエント科学は数学や医学、天文学など発展させたが多分に宗教的な要素を含んでいたが、ギリシャ科学において世界を統一的な原理によって合理的・体系的に説明する科学思想へと変化していった。さらにこのギリシャ科学は発展し西欧へと伝わり、近代の科学技術の発展の推進力になったと考えられる。ここでは後の科学革命を生起させた過程を理解する。

また、近代科学を創出した科学革命の特質を考え、それらを生み出した思想を理解し、西欧においてのみ近代科学が成立した要因を考察する。

ページ 165～331

産業革命の推進力となった蒸気機関の発明により19世紀の物理学において熱と動力に関する科学的考察が促進された。同時にそれは近代国家形成に影響を与え、さらには産業革命の反動として反科学主義やロマン主義などをも生み出された。ここではこの時代の社会的状況と科学との関係を理解する。物理学では熱力学が発展しエネルギー概念が成立するとともに電磁気学の基礎理論が完成するという新しい動きがあった。その後20世紀には科学はさらに飛躍的に発展し、数々の新技术が生み出された。現在、科学技術は社会・経済・政治のなかで重要な役割を果たす。後半部は現代科学の内容と社会的あり方について考察する。

■学習上の留意点

それぞれの科学史変革期における時代背景や社会的環境、思想や知識を十分把握し、科学の内容と発展へ至る経緯を調べ理解することである。

■参考文献

『近代科学の源流』伊東俊太郎著（中公文庫）

『西欧近代科学（新版）』村上陽一郎著（新曜社）

『科学の発見はいかになされたか』福澤義晴著（郁朋社）

科目コード	科 目 名	単位数
0041	英語 I	2 単位

教材コード 000019

教 材 名 英語 I

著 者 名 等 小川 瞳子

■教材の概要

大学生の英語教本としてそれなりの内容をもち、平常な英語で書かれた米小説、J.Cheever の Goodbye, My Brother と英小説、F.Towers の The Little Willow を取り上げました。読んで鑑賞してほしいと思いますが、それには文の構造を知って正確に読むことが大切です。英語は語順によって語句の機能が決まる言語です。『英語 I』ではこの 2編の小説を使って文中における語句の位置と機能を理解する練習を第一に考え、注釈では複雑な構文をできるだけ詳しく説明しました。

■学習計画のポイント

文法書を参照して注釈の最初のページにまとめてある基本事項を復習してください。実際の英文は基本文型の中に分詞構文の句や関係代名詞の節が一見複雑に挿入されていますが、基本事項の繰り返しです。基本さえ押さえれば解釈できます。時々英文を書いて構文を分析する練習が効果的です。辞書はこまめに引いてください。意味はその単語の文中の機能によって選択し、決して勘で訳さないこと。新しい単語は発音記号にも注目が必要です。

■学習上の留意点

- ① 基本の 8品詞の働きをよく理解すること。
- ② 動詞を中心とした、5つの文型と日本語との関係を理解すること。
- ③ 以上の事を単語レベルで理解するだけでなく、句、節のレベルで理解すること。
- ④ 時には和訳を書いて、筋の通った解釈をしているかどうか確かめてみること。

■参考文献

今持っている文法書、新たに買うなら『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）など。

科目コード	科目名	単位数
0042	英語Ⅱ	2単位

教材コード 000020

教材名 英語Ⅱ

著者名等 高橋 公雄

■教材の概要

現代英語の理解のために、イギリス、カナダ、アメリカの三人の作家の短編小説で教材を編んである。現代の作家の書く英文はひと昔前のものに比べ、素直な構文で、それでいて美しい。そうした特徴を楽しみながら、英文を読み解く喜びを味わうように、注釈も親切に書かれている。内容理解のためには基礎的な文法、単語、熟語の知識を修得の必要性はいうまでもない。その上に、美しい日本語の書ける努力を忘れないでほしい。

■学習計画のポイント

とにかく辞書を引きつつ、意味をとりましょう。英語は頭から読み下すものです。後ろから訳し上げようとはせず、前から出て来た単語順に意味をとってください。まず、主語と動詞をつかみ、次に目的語・補語、そして修飾語の順に英文を把握していってください。さらに大切なことは、テクストの文脈をしっかりとおさえながら読むということです。がんばりましょう！

■学習上の留意点

- ① verbals（準動詞）をしっかりとやっておこう。文構造の知識を再認識しておきたい。
- ②（複合）接続詞 – ほとんど熟語に近いもの – を勉強しよう。

■参考文献（主として文法取得のために）

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科目名	単位数
0043	英語Ⅲ	2単位

教材コード 000021

教材名 英語Ⅲ

著者名等 真野 一雄・金子 利雄

■教材の概要

本教材は Lynd と Russell の隨筆と、Tolkien の小説をとりあげています。隨筆と小説という形式の違った読物に慣れ親しんでいただくことが第一目標です。次に、注釈の相違からわかるように、前半では正確な構文解釈ができるように文法事項の説明に力点が置かれており、後半では行間の意味を取ることと英語で意味を解釈することをねらいとしています。

■学習計画のポイント

ページ 1～10

英文を日本語に訳す際に、正しい意味の通った日本語になっているかどうかを確認すること。正確に文構造を理解するために、注釈の説明と練習問題を試みることは効果的です。それでも理解し難い人は、基礎的文法書を参照してください。

ページ 11～33

この単位では、先程の文構造を正しくとらえるだけでは文の意味を正確に理解できません。注釈に基づいて、語句の二重意味構造を文脈から、あるいはイマジネーションからつかむようにしてください。

■学習上の留意点

- ① 英文和訳ができること。
- ② 8品詞の働きを理解すること。
- ③ 5文型と動詞の種類を理解すること。
- ④ 指示語の理解すること。

■参考文献

『英文法解説（改訂3版）』江川泰一郎著（金子書房）

科目コード	科目名	単位数
0044	英語IV	2単位

教材コード 000371

教材名 『Get It Write』

著者名等 市川 泰弘・Peter Serafin

■教材の概要

英語の技能には Reading, Writing, Listening, Speaking の 4 技能がある。その中で Writing に関して多くの学生は英語の日本語に「訳す」作業を行い、英語のニュアンスを理解しようすることはまれである。この教材は Non-native Speaker が間違いやすい表現を選び、どのようにすれば英語らしい英語を書くことが出来るかを理解するために作られた教材である。さらに日本人が苦手とするパラグラフライティングの基礎を理解するセクションも加えられている。さまざまな表現が項目ごとにまとめられ、また使い方については Passage によって具体例がしめされている。

■学習計画のポイント

最初に Passage が示されているので、太字 (bold) になっている表現を注意しながら、どのようなことを伝えているのかを理解する。2~3ページは Exercise になっている。Exercise A はどちらがより適切な表現の英文なのかを理解する。わからない場合は日本語訳をつけてみて、どこが問題なのかを考えてみる。Exercise B はどこが英文として誤りであるかを見つける。誤りがある場合とない場合があるので注意する。どこが間違いかわからない場合は日本語訳をつけてみるとよいであろう。どうしてもわからない場合は Common Errors を参照しても良い。Exercise C はできるだけ日本語の直訳はさけ、英語らしい表現を意識しながら作文してみると良い。Paragraph Writing では Passage の英文を参考に、Paragraph Writing の基本を理解し、練習問題を行ってもらいたい。

■学習上の留意点

すぐにヒントや答えに頼るのではなく、出来る限り自分の力で英文を完成させたり、間違いを指摘してほしい。また、調べなくてもわかった部分と調べてわかった部分、調べてもわからなかった部分をちゃんとまとめて、さらに定着するように努力をしてもらいたい。

■参考文献

Collins COBUILD for Advanced Learner's English Dictionary Longman Dictionary of Common Errors

科目コード	科目名	単位数
0045	英語V	2単位

教材コード 000023

教材名 英語V

著者名等 田室 邦彦

■教材の概要

Xenophobe's Guides 「外国人恐怖症の人のために書かれた、（外国人についての）ガイドブック」と銘打たれた叢書の一冊である本書は、鏡の中の鏡に映っているようなイギリス人自身の外国人恐怖症も含めて、イギリス人の思想・言動及びイギリスの社会制度の、多少なりとひねこびた側面の戯画である。外国人がイギリス人の言語表現に触れるとき、その言語表現の前提となっていて従って明示されていない、イギリス人が共有している思想や相互についての知識などを、その解釈に織り込めないために、理解に苦しむ場合が少なくない。その意味での言語の背景的知識を得るのに本書は益するところが多いであろう。また、一瞬の油断もできないイギリス流のユーモアで一ひねりした文体は、イギリス英語のユーモアの修辞法あるいは論理を知るためのいい素材となると思われる。

■学習計画のポイント

上に記したような文体であるために、言葉と言葉との歯車がかちっと噛み合わないで焦ることが多いと思われる。そういうときには、だまし絵を眺めるように、暫く時をおいて改めて眺めていただきたい。ジグソーパズルのすべてのピースがピッタリ合う喜びを得られるであろう。

■学習上の留意点

語注はすべて English-English の学習辞典からの引用である。英英辞典の常として、その定義から、それぞれの語句に、それを他の語句から区別するどのような意味要素が含まれているかがよく判るはずである。その用例から、その語句が用いられる典型的な文脈や連語関係 (collocation) が見える。しかし語句が本当に理解できるのは、現実の使用の中からである。こう使うのかと頷きながら語句をものにしていただきたい。

■参考文献

テキスト編纂から数年の間にインターネットで得られる情報量は格段に増大してきた。Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://www.loup.co.uk/elt/oald/>) も Cambridge International Dictionary of English (<http://www.longmanwebdict.com/>) なども今では online で引くことができる。活用していただきたい。

科目コード	科 目 名	単位数
0046	英語基礎	2 単位

※この科目は文理学部文学専攻（英文学）は不配当です。

教材コード 000294／000313

教 材 名 『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』
『Welcome to College English コミュニケーションのための大学英語入門』(学習用ガイド)
※ 2 冊組み

著 者 名 等 大島 真・加藤 忠明・菊地 圭子・竹前 文夫・松本 理一郎・W.F.O'Connor

■教材の概要

高等学校で学ぶべき英語の復習を目標に作成されており、また学び直すのにも役立つ生涯学習用の教材でもあります。各 Unit は Point 解説、日米の異文化理解に役立つ英文 (Culture Note)、3 つのレベルの演習問題で構成されています。別冊「学習用ガイド」では詳しい解説、演習問題の解答、訳例等が記されています。

■学習計画のポイント

各 Unit の Point にある例文、Culture Note の英文をノートに何回も書き写しましょう。そして一人でも必ず声を出して読んでください。声を出して読むことが大切です (Culture Note の英文は CD に収録されています)。英語のリズムと正しい発音を覚えてください。

レベル 1～3 の演習問題の答は教材に書き込まないで、ノートに書きましょう。正しいか誤りか、誤りならどこが誤りか、なぜ誤りか「学習用ガイド」で確認します。自分で考えることが重要です。いきなり「学習用ガイド」を見てはいけません。こちらの英文も声を出して読んでください。

■学習上の留意点

英語と日本語の発音は異なります。「学習計画のポイント」でも記したように正しい発音・リズムを習得することも大切です。教材 Unit 6 で発音とアクセントを学習してください。個々の発音について、さらに学習したい人は下記の参考文献の CD を聞いて、英語の発音に耳を馴らし、同じように言えるように練習を積み重ねてください。

■参考文献

『英語の発音がよくなる本 CD 2 枚付』 異一郎 (中経出版)

他にも同様な CD 付の本が数社から出版されています。いくつか書店に常備されているでしょう。

科目コード	科目名	単位数
0051	ドイツ語Ⅰ	2単位

教材コード 000024

教材名 『あなたのドイツ語—授業のための文法講義ノート』

著者名等 佐々木 稔・金成 陽一

■教材の概要

ドイツ語の文章構造を基本から平易・詳細に説明し、複雑だといわれる変化詞の語形変化についても、理解しやすいように表示されている。ドイツ語文法の要といわれる「格」の用法の理解から、配語法に基づく文章構造の分析にいたるまで、ドイツ語文に関する全体の知識が無理なく修得できるよう配慮されている。文法の説明文も丁寧に付されており、例文にはすべて訳文がつけられているので、初心者の独習用教科書としては最適なものだと考えられる。

■学習計画のポイント

ページ1～23

ドイツ語の文法構造を支える一方の柱ともいるべき「格」の用法について、平易な例文をあげながら詳細に説明し、初心者がドイツ語の学習に無理なく入っていけるよう記述されているので、ゆっくり丁寧に学習してほしい。

ページ24～41

「再帰動詞」と「非人称動詞」という新しい動詞の用法や「形容詞」や「副詞」の用法という、ドイツ語文の意味構造の微妙なニュアンスを規定する品詞の特性について学ぶ。「接続詞」の用法も含めて新しい文法の特色について学習する。

ページ42～55

ドイツ語の文章構造を特色づける「時称」、とりわけ助動詞と本動詞の組み合わせによって表現される「複合時称」、未来形や完了形の文法構造について学ぶ。

ページ56～74

時称の助動詞と共に、文章のニュアンスを表わす「話法」、文章の形態を表わす「受動」の助動詞、基本動詞がさまざまな前綴字と結合して形成される「複合動詞」、動詞の意味の微妙なニュアンスを添える「接続法」について学習する。

■学習上の留意点

- ① 格の用法に基づく「冠詞類」の格変化。動詞の現在人称変化。
- ② 形容詞の格変化、比較変化。再帰動詞・非人称動詞の用法。接続詞の用法。
- ③ 動詞の時称形態、とくに複合時称の形態。
- ④ 話法の助動詞の用法。受動文の構造。複合動詞の種類。接続法の用法。

■参考文献

『はじめて学ぶドイツ語（新装版）』 榎本重男著（東洋出版）

※『ひとりで学べるドイツ語』 榎本重男著（東洋出版）

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』 中島・平尾・朝倉著（白水社）

科目コード	科目名	単位数
0052	ドイツ語Ⅱ	2単位

教材コード 000441

教材名 『ハンブルグの風 ドイツ語文法読本』

著者名等 川嶋 正幸・中村 憲治・Klaus Schlichtmann

■教材の概要

「ドイツ語Ⅰ」で学んだドイツ語文法の基本的な知識を復習し、ドイツの文化・生活・歴史に触れる文章を辞書の助けを借りながら読み、さらにテキストに即した練習問題を解くことによって、内容の理解と文法的基礎の確立ができるように配慮されています。また添付されているCDをよく聞き、自分の口で発音し、それを自分でしっかりと聞き取ることによって、単語の発音やアクセントのみならず、文章のイントネーションまでもマスターすることができます。文章を覚えてしまうくらい何度も発音して下さい。

■学習計画のポイント

ページ iii ~ 33

- ① 単語の発音をしっかりと復習し、主語の人称によって変化する定動詞の人称変化形、人称代名詞や所有冠詞、名詞の性・数・格によって変化する冠詞類の格変化をしっかりと復習して、ドイツ語の基本構造の核となる部分に関する知識を整理してください。
- ② (ページ18より) 前置詞、話法の助動詞、分離動詞や非分離動詞、再帰動詞、非人称動詞、形容詞の用法や形容詞の比較変化といった、ドイツ語の基本構造を補完する部分を復習してゆきます。これ以後に復習してゆく、時制、関係文、態、接続法なども、これまでの部分がしっかりと理解できていれば容易に理解できるはずですが、基礎をしっかりと固めないと結局空中分解してしまうことになりますので、あわてずにじっくりと理解するようにしてください。

ページ 34 ~ 51

- ③ 動詞の三基本形(不定詞、過去基本形、過去分詞)の構造と時制をここでしっかりと学び直します。動詞を運用するためには不規則動詞の三基本形をしっかりと覚えておく必要がありますので、教科書の52ページから57ページの主要不規則動詞変化表にある動詞を覚えるようにしてください。
- ④ (ページ42より) 関係文と受動文、そして接続法の構造を復習します。接続法は、日本語の尊敬語や謙譲語のように難しいと敬遠されがちです。しかし尊敬語や謙譲語でも、それが尊敬語や謙譲語であることが解れば、あとはどのような使い方か考えればよいはずです。接続法の構造は規則的で、接続法であることを見抜くことは易しいですから、あとは何のためにこの接続法が使われているか、一つ一つ理解してゆけばよいのです。是非文法書を手がかりにじっくり復習してください。

■学習上の留意点

- ① 単語の発音。動詞の現在人称変化。冠詞類の格変化。
- ② 前置詞の格支配。話法の助動詞の用法。複合動詞や再帰動詞、非人称動詞の用法。形容詞の用法。
- ③ 動詞の三基本形。時称の形態。
- ④ 受動文の形態。関係文の構造。接続法の用法。

■参考文献

- 『よくわかるドイツ文法』大岩信太郎著(朝日出版社)
 『必携ドイツ文法総合まとめ(改訂版)』中島・平尾・朝倉著(白水社)
 『自習ドイツ語問題集』尾崎盛景・高木実共著(白水社)

科目コード	科目名	単位数
0053	ドイツ語Ⅲ	2単位

教材コード 000026

教 材 名 『ベルリン・ドイツ統一の日』

著 者 名 等 G.Kluchert・池田 信雄 共著

■教材の概要

教科書『ベルリン・ドイツ統一の日』(Berlin · Dokument Wiedervereinigung) は、先頃世界中の人々を感動の渦に巻き込んだ「ベルリンの壁の崩壊」と、それに続く「ドイツ統一」までのベルリンの街の様子を興味深く記したものです。教科書のドイツ語は平易で、初級のドイツ語文法を理解している学生諸君なら十分に理解が可能なものです。戦後の復興を成し遂げたドイツにとって、喉元に刺さった棘のようなものであった「ベルリンの壁」の話は興味深いものです。

■学習計画のポイント

これまでに学んだ初級ドイツ語の文法知識の復習をかねて、教科書を最初からゆっくり読んでいってください。「独和辞典」をていねいに引き、ドイツ語の一語一句の意味をおろそかにせず、難しい文章に出会ったときは、文法の教科書(「ドイツ語Ⅰ」)を手掛かりに、正しい日本語になるまであきらめずにがんばってください。この教科書にはドイツ人教師による発音のテープ(別売り)も用意されており、また教科書の内容を再現した美しいビデオも教科書の出版社から発売されています。これらを副教材として併用すれば、とくに自宅で学習される学生諸君には、学習効果も倍増するものと思います。

■学習上の留意点

「ベルリンの壁」が作られ、崩壊した歴史的背景を、日本で刊行されている書物を参考に理解したあと、教科書の中の写真を手掛かりに本文のドイツ語の内容を読解することをお勧めします。また教科書の出版社が副教材用に製作しているビデオの助けを借りながら、教科書のドイツ語を理解するのも効果のある勉強方法だと思います。

■参考文献

※『社会主義の20世紀 第一巻 守護の壁・恥辱の壁 [東ドイツ]』(日本放送出版協会)

科目コード	科目名	単位数
0054	ドイツ語IV	2単位

教材コード 000442

教材名 『フリーダ伯母さん』

著者名等 ルードヴィヒ・トーマ・長谷川 つとむ・川嶋 正幸 編

■教材の概要

教科書の『フリーダ伯母さん』は、ドイツのマーク・トウェインと称せられたルートヴィヒ・トーマ（1867 – 1921）が、20世紀初頭、代表作『悪童物語』に続いて執筆した小品です。この作品でも、前作で描かれたトーマの分身ともいべきいたずらっ子が、ドイツのハックルベリー・フィンさながらに大活躍します。決して難しい文章ではありませんし、巻末に詳細な注解が添えられていますので、一文一文噛みしめながら読んで下さい。

■学習計画のポイント

教科書に書かれている文章の中には、最初は分かりにくいと感じる文章もあるかもしれません。模範的な文章でのみ構成されている「ドイツ語I, II, III」の教科書の文章とは異なり、日常会話の文章では省略が行われたり、本来副文になるべきところが主文の形になったりすることがあります。このような文を少し読んでゆけば直ぐに慣れますが、判りにくい箇所も注解を参考にすれば難しいものではありません。すでに習得したドイツ語の文法の知識を基礎に、ゆっくりと読解の学習を続けてください。原文と訳文をノートに書き、文の構造を文法的に理解しながら、文意を把握できる意味の通った訳文を書くように努めてください。

■学習上の留意点

百年前の日本語は現代語とは随分違いますが、ドイツ語の場合、昔は存在しなかった言葉や、現在では無くなってしまった言葉、そして正書法を別にすると、百年前のドイツ語と現在のドイツ語にそれほど大きな違いはありません。したがって基礎の文法力があれば、ゲーテでもトーマでも読むことができるのです。なお文学作品を訳す場合、例えばこの場合、トーマの文章にある生き生きとしたリズムを活かした日本語に訳したくなります。できればそれに越したことはありませんが、うっかりすると日本語に拘って原文から離れた訳を作りがちになります。そのような訳は困りますし、そのような訳には誤訳が隠れている場合が多いのです。直訳で全く構いませんので、読む人が主語や目的語をはっきり理解できるような訳を心掛けてください。

■参考文献

『中級ドイツ語の研究』信岡資生 藤井啓行 共著（朝日出版社）

『中級ドイツ語のしくみ』清野智昭著（白水社）

科目コード	科目名	単位数
0056	フランス語Ⅰ	2単位

教材コード 000372

教 材 名 『ゼフィール（フランス語文法の基礎）』

著 者 名 等 E.E.F.L.E.U.K.

■教材の概要

初級フランス語の習得に必要な文法事項が丁寧にかつ分かりやすく解説された教材です。しかも例文のすべてと練習問題の大半が付属のCDに収められているので、学習者は文法事項を頭で理解したなら、今度はCDを聞きながらそれを何回（何十回）と自分で発音して、フランス語を「音」として身に付けることが可能です（外国語は頭と口を使って覚えるものです）。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲対象は、文法面に関しては本教材の第1課から第6課前半（8～27ページ）ですが、基本的な単語に関しては『フランス語Ⅱ』をフルに活用してください。『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅱ』の違いはレベルの違いではなく、前者が文法面での理解を目的としたもの、後者が基本的な語彙の習得を目的としたものです。
- ② また、『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の範囲内には〈第1群規則動詞〉と呼ばれるものがいくつも出てきますが、それらもすべて『フランス語Ⅱ』に収められています。学習者は、フランス語Ⅰ・Ⅱの段階では、この2冊のテクストに全面的に依拠す形で学習を進めることができます。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳です。また「報告課題」の内容を多少応用・変形して出題する「科目修得試験」にあっても、70%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習ではまず、「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』とともに、それぞれ文法面と基本的な語彙面では通信教育に最も適していると思われるものを選びましので、これ以外に参考書は不要でしょう。ただし新しく始める外国語ですから、信頼できる仏和辞典が絶対に1冊は必要です。既に辞書をお持ちの方は構いませんが、まだお持ちでない方には「白水社」の『ディコ仏和辞典』がお薦めです。

科目コード	科目名	単位数
0057	フランス語Ⅱ	2単位

教材コード 000373

教材名 『CD・イラストで覚えるフランス語基本500語』

著者名等 フランス語教育振興協会編

■教材の概要

『フランス語Ⅰ』が主として文法面の理解と把握を目指しているのに対して、この教材は端的に基本単語の習得を目的としています。ここに収められている約500語は、英語にすればいずれも中学1年・2年生レベルのものばかりですし、学習者が今後フランス語の学習を進めていく上で必要不可欠なものばかりです（逆に言えば、フランス語は英語ほど語彙が多くないので、実用フランス語検定試験の5級から3級くらいまでは、この中の500語で十分対応が可能です）。当然すべての例文が付属のCDに収録されていますし、また可愛らしい（=微笑ましい）イラストが描かれているのも大きな魅力です。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅱ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、文法面に関しては『フランス語Ⅰ』の第6課後半から第8課まで（27～37ページ）ですが、それ以外に数（1～31）・曜日・月・季節などが含まれます。これらに関してはこの教材を使ってしっかりと覚えてください。
- ② さらに『フランス語Ⅰ』の「報告課題」の中で出題されている〈第1群規則動詞〉や、報告課題フランス語Ⅲの中で出題されている〈不規則動詞〉の活用もすべて音声化されて収録されています。フランス語の学習は常に動詞の活用（人称変化）を覚えることが中心となります。ひとつひとつ単語を覚えるのは無論ですが、動詞の活用さえマスターてしまえばあとは基本的に中学の英語と同じです。動詞の「現在形」の活用を覚えるという点でも、この教材は最適です。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても50%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習ではまず、「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』ともに初級フランス語としては通信教育に最適と思われるものをチョイスしてありますので、これ以外に参考書は不要でしょう。内容的には中学1年生の英語と同じですから、〈分かる〉〈分からない〉ということはないはずです。あとは時間と労力を割いて〈覚える〉だけです。外国语の習得にあっては、〈分かる〉と〈覚える〉は完璧にイコールです。

科目コード	科目名	単位数
0058	フランス語Ⅲ	2単位

教材コード 000374

教材名 『アルモニ』

著者名等 渡辺 公子

■教材の概要

初級フランス語も後半部分になると次第に複雑になってきます。そこで『フランス語Ⅲ』用の教材としては文法上の説明が丁寧な1冊を選びました。『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』と異なり、付属のCDは付いていませんが、音声面は『フランス語Ⅰ』の同じ個所の例文を参考にして補ってください。またこの上の『フランス語Ⅳ』で必要とされる文法事項（「半過去形」「未来形」「条件法」や「接続法」など）の基礎的な理解を助ける上でも役立つことでしょう。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語Ⅲ』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、本教材の第7課から第8課まで（32～39ページ）ですが、〈不規則動詞〉の現在形の活用に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに参考になるはずです。
- ② また『フランス語Ⅲ』が対象とする「複合過去形」や「人称代名詞の語順」（本教材第7課）、さらには「代名動詞の用法」（本教材第8課）などは、いずれもフランス語を習得する上で非常に大切なものです。したがってそれらの文法規則を本教材を使って頭で理解したなら、今度は『フランス語Ⅰ』の当該個所の例文や練習問題のCDを何度も聴き自分でも発音して、「音」として覚えてください（『フランス語Ⅰ』でも述べましたが、外国語の習得は頭と口を使って行なうものです）。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」にあっても50%は同じ形式です。したがって日頃の学習ではまず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください。

■参考文献

上述のように、〈不規則動詞〉の人称変化に関しては『フランス語Ⅱ』が大いに役立つでしょうし、文法事項の理解と把握という点では『フランス語Ⅰ』と『フランス語Ⅲ』で十分なはずです。前にも述べましたように、外国語習得にあっては、〈覚えた〉ことだけが初めて〈分かった〉ことになります。

科目コード	科目名	単位数
0059	フランス語IV	2単位

教材コード 000347

教材名 『Voilà! ヴワラ』

著者名等 伊勢 晃・谷口 千賀子

■教材の概要

初級フランス語も最終段階になるとかなり複雑になります。とりわけ最後の「条件法」や「接続法」などはもう中級の領域といってもいいくらいです。そこでフランス語IVでは、文法上の説明が分かりやすく、かつCD化された例文の豊富なテクストを選びました。無論たんにフランス語IVの範囲内の学習にとどまらず、フランス語IからIIIまでの範囲内の復習をする上でも大いに役立つでしょう（フランス語は1度や2度の学習で習得できるほど容易ではありませんし、またすぐに口を突いて出てくる例文が多ければ多いに越したことはありません）。

■学習計画のポイント

- ① 『フランス語IV』の「報告課題」の直接的な対象範囲となるのは、第13課「半過去形／大過去形」から第20課「接続法」(52～83ページ)までです。中でも中心となるのは、第13課「半過去形」、第17課「単純未来形」、第18課「ジェロンディフ」、第19課「条件法」、第20課「接続法」と、いずれも動詞の《時制変化》《法変化》です。つまりフランス語の学習は、つねに「動詞の活用」が中心になります。この「動詞の活用」さえクリアしてしまえば、あとは基本的に英語と同じです。
- ② またCDこそ付いていませんが、『フランス語III』にも分かりやすい説明が載っているので（第9課～第12課）そちらも是非参考にしてください。

■学習上の留意点

「報告課題」は全問が《発音記号の文字化》とその上での和訳ですし、また「報告課題」の内容を多少応用・変形する形で出題する「科目修得試験」も40%は同じ形式を取ります。したがって日頃の学習では、まず「音」をしっかりと身に付ける姿勢を心がけてください（「音」を伴わない学習は「語学」ではなく「考古学」＝「象形文字の解読」です）。

■参考文献

「参考文献」という訳ではありませんが、「報告課題」と「科目修得試験」のそれぞれI～IVに合格された方ならば、《実用フランス語技能検定試験》（通称、仏検）の4級合格は間違いありませんし、熟語や慣用表現をもう少し身に付ければ3級合格も十分に可能です。是非積極的にチャレンジしてみてください。

科目コード	科目名	単位数
0061	中国語Ⅰ	2単位

教材コード 000456

教材名 『中国語キャンパス会話編（改訂版）』

著者名等 関中研

■教材の概要

本教材は会話に重点を置いた中国語入門教材である。各課は基本的に会話体の例文及びヒアリング・和文中訳を中心とした練習問題から構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。日常シーンで用いられる会話がほぼ網羅されている。必ず辞書を引いて意味を確認すること。なお、外国語学習においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学習ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので、よく聞いて少しでもその欠を補っていたい。

■学習計画のポイント

1課以前は発音編であるが、説明のみに頼らず、付属CDを聞きながら何度も練習すること。練習問題については、形式の如何にかかわらず、全てについて日本語↔中国語、中国語↔日本語の訳ができるようにしておく。ピンインもすべて書けるようにしておく。また、バリエーションや会話に出てくる中国語についても、すべて日本語↔中国語、中国語↔日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出単語には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等でより詳しく調べておくこと。

■学習上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においてはリポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

当面は小型の辞書で間に合わないことはないが、いづれは中型以上の辞書が必要となる。なお、電子辞書は初・中級の外国語学習には不適当であると心得られたい。

科目コード	科目名	単位数
0062	中国語Ⅱ	2単位

教材コード 000457

教材名 『中国語キャンパス基礎編（改訂版）』

著者名等 関中研

■教材の概要

本教材は文法に重点を置いた中国語初級～中級教材で、中国語Ⅰで使用する教材の続編である。各課は基本的に散文と、それに対するキーワード・補充例文及びポイント（発展的文法）で構成されており、またそれぞれの課は易から難へ段階を踏みながら進むように配列されている。文法は説明を読むだけでは理解できない。練習問題をやることによって始めて理解し定着させることができる所以であるから、必ず巻末のドリルを解かなければならない。なお、外国語学習においては実際の発音に触れることが不可欠であるが、教材のみでの学習ではなかなか難しい。幸い本教材にはCDが付属しているので、よく聞いて少しでもその欠を補っていただきたい。

■学習計画のポイント

練習問題については、形式の如何にかかわらず、すべてについて日本語⇒中国語、中国語⇒日本語の訳ができるようにしておく。ピンインも全て書けるようにしておく。また、本文・キーワード・ポイントなどに出てくる中国語についても、すべて日本語⇒中国語、中国語⇒日本語の両方の訳ができるようにしておく。新出語句には簡単な訳語が付されているが、これのみでは不十分である。参考文献として挙げた辞書等で詳しく調べておくこと。

■学習上の留意点

- ①教材すべてを暗記するつもりで、繰り返し音読すること。
- ②和文中訳や中文和訳においては、リポートのポイントで挙げた点に注意されたい。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）

中型以上の辞書が必要である。電子辞書は初・中級の外国語学習者には不適当であると心得られたい。

科目コード	科目名	単位数
0063	中国語Ⅲ	2単位

教材コード 000458

教材名 『中国語検定4級合格への手引き』

著者名等 池間 里代子

■教材の概要

本教材は中国語文法解説を通して、文法を整理し理解するとともに、中国語検定4級（初級終了）レベルのリスニング練習をするためのものである。II～V章は述語（動詞・形容詞）を中心に述べており、中国語I・IIで習得した文法項目をよく復習すれば理解できる。各課は主に文法解説とそれに対応する例文から構成されている。基本的には例文には日本語訳が付されているが、初出単語は辞書で確認されたい。各課末と巻末には練習問題があり、別冊の解説を参照しながら理解を深めることができる。

■学習計画のポイント

まずI章から順に進んでいく。文法説明をよく読み、例文を理解していく。一通り終わったらもう一度始めから同様にして読んでいく。これを繰り返していくばほとんどの文法が理解できるだろう。次にすべての例文を覚える。最後に各課末・巻末の練習問題をやってみる。これも漢字とピンインの両方で書く。間違えた箇所はもう一度教材をよく読んで考えてみる。

■学習上の留意点

練習問題に使われる単語は難しいものが多いので、初出単語は辞書で意味・用法を調べること。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）、あるいは同等レベルの辞書が必要である。

科目コード	科目名	単位数
0064	中国語Ⅳ	2単位

教材コード 000459

教材名 『時事中国語の教科書 2011年度版』

著者名等 三猪 正道・陳 祖蓓

■教材の概要

本教材は読解力養成を目標とした教材である。中国語Ⅰ～Ⅲまでは和文中訳を通して文法事項を習得することを目標としていたが、Ⅳでは中文和訳の能力が必要とされる。教材の内容はかなり高度であるが、全文に発音がふされており、更に詳細な語注も付されているので、十分理解可能であろう。ただし、自分で辞書を引きながら読んでいく過程も不可欠である。本教材で力をつければ、実際に中国で発行・出版されている新聞・雑誌や小説を読むことも不可能ではない。是非目標の一つとして頑張ってほしい。

■学習計画のポイント

本文のみならず、読解の手がかりや語注に出てくる例文もきちんと押さえておく。また、漢字・ピンインで記された中国語も正しく理解できるようにしておく。

■学習上の留意点

語句の説明を見てよしとするのではなく、辞書や文法書で一字一句得心いくまで調べること。また、本文やポイントの例文は、すべて暗記できるまで繰り返して音読すること。

■参考文献

『中日辞典（第2版）』（小学館）、あるいは同等程度の辞書は必要だろう。文法の参考書としては『中国語検定3級合格への手引き』池間里代子（南雲堂フェニックス）を挙げておく。

科目コード	科 目 名	単位数
0066	日本語 I	2 単位

教材コード 000295

教 材 名 『どんなときどう使う日本語表現文型 200 初・中級』 (学習指導書別冊)

著 者 名 等 友松 悅子・宮本 淳・和栗 雅子

■教材の概要

『どんなときどう使う日本語表現文型 200』を教材にして、どういうときに（どんな場面で、どんなことばを使えばいいか）を学習します。

教材には各課のはじめに「知っていますか」「使えますか」という“うでだめし”的コーナーがありますから、自分がどのくらい文型を知っているか、正しい使い方をしているかがチェックできます。学習内容についての理解確認は練習のコーナーで行ないます。

■学習計画のポイント

本課は「時間関係」「比較・対比」というような文型別に 20 課に整理されています。各項目は基礎と発展に分かれているので、基礎をしっかりと理解してから、発展の文型に進みます。

“うでだめし”で自分の知識を知る→「本文」で文型の使い方を学習する→「練習」で学習した内容を確認するという順番に学ぶことをすすめます。教材の中にコラム欄が設けられていますが、文法を理解する上で重要な項目ですから、時間をかけて取り組んでください。

話すことば的な表現・書きことば的な表現など、図式された項目名を参考に、使用方法を理解してください。

■学習上の留意点

日本語能力の「書く」「読む」「話す」力は、この教材で養えます。文型がある程度理解できるようになったら、ニュースを聞くなどして「聞く」力の向上も心がけてください。聞いている内容を把握するには、語彙力が必要になりますから、教材で充分な語彙力を身につけることが大切です。

聞き手に意思を伝える「話す」力には、筋道のたった正しい文型理解とその使用が必要です。教材ではその理解力を養い、実践で発音に関する能力を養うよう、心がけてください。

■参考文献

『なめらか日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

※『読む聞く ニュースの日本語』片山朝雄著（アルク）

科目コード	科目名	単位数
0067	日本語Ⅱ	2単位

教材コード 000460

教材名 『にほんご作文の文法』

著者名等 佐藤 政光・戸村 佳代・池上 摩希子

■教材の概要

教材として『にほんご作文の方法』を取り上げる。中級を対象とした教材だが、テーマや内容の掘り下げによって上級者にも活用できる教材である。1課から16課までさまざまな表現が「物の形」「前後関係」「因果関係」のようにテーマ別に項目立てられているので、目的に合った作文の技術を習得できる。作文力の向上は全体的な日本語力のアップにつながるので必須の学習項目である。また各課に作文の技術と重要表現が付されているので、具体的な使用法を自習し、練習問題で実力を養成できるよう構成されている。

■学習計画のポイント

本教材は作文に必要な表現を1回から2回に分けて、学習できるように構成されている。まずは作文技術を理解して使えるようになること、そののちこれらの表現が各課配当の文中にどのように使われているか確認して欲しい。短い語句を知るのではなく、文の中での使われ方を理解することが学習のポイントになる。練習を進めていくことで表現力が身につくので段階的に計画を立て進めることが重要である。

■学習上の留意点

作文技術に取り上げられている文型を使って作例することが最も効果的な学習方法である。分からぬことばや漢字は辞書で調べて正しく理解し、語彙量を増やすことにも留意すること。

■参考文献

『なめらかな日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

『にほんごよむよむ文庫〔レベル2〕』vol.3（アスク出版）

『言語学とは何か』田中克彦（岩波新書）

科目コード	科 目 名	単位数
0068	日本語Ⅲ	2 単位

教材コード 000297

教 材 名 『日本を考える五つの話題』

著 者 名 等 架谷 真知子・津田 彰子

■教材の概要

教材は『日本を考える5つの話題』を取り上げた。教材は日本文と問題文に合冊されているが、本文各話題は「A 基本知識や歴史的背景理解のためのもの」「B 社会的問題としてマスコミで取り上げられたもの」「C 調査・討論など日本による活動のためのもの」によって構成されている。

■学習計画のポイント

各章はABCの読み物を本教材とする。日本の多くの出版物が縦書きであることを考慮し、縦書きの文章も含まれている。縦書きの文章の表記に慣れるよう、句読点・段落ほかにも注意を払うこと。

問題文は①表現練習②接続練習③誤解問題④発展問題その他の問題で構成されているので、①から④の課題をていねいに学習することが望ましい。

表現練習は本文から応用の可能な文型が抜粋されているので、本文を参照しつつ、応用表現を練習する。

接続は文型表現を習得するために重要である。本文を参照しつつ、場面別の表現を整理・理解する。

その他の練習にはスピーチ練習が設問されている。スピーチ文の作成と上達は回数を重ねることで向上する。スピーチ文を繰り返し作成し、必要と考える学生はテープに自分のスピーチを録音して、後で聞きなおすなどの練習も必要である。

■学習上の留意点

本文教材以外に新聞記事や漫画が添えられている。日本事情理解のためにも有意義であろう。十分に活用することを期待する。

■参考文献

『なめらか日本語会話（新装版）』富阪容子著（アルク）

※『日本人の言語表現』金田一春彦著（講談社）

『日本語Ⅱ』（通信教育教材）

科目コード	科目名	単位数
0069	日本語IV	2単位

教材コード 000461

教材名 『日本への招待（第2版）』

著者名等 近藤 安月子・丸山 千歌 編著

■教材の概要

本教材は東大教養学部の短期交換留学生用テキスト（中・上級）として開発されたもので、短期間に効率よく学習できるよう配分されている。上級者にとって日本語の習得と日本社会の理解は不可分だが、本教材ではこの観点から、意識の喚起—資料の提供—考察の整理（書く、読む、話す）が組織的に構成されている。漢字圏・非漢字圏出身のレベルに合わせ振り仮名の有無が分けられているので、自身の目的意識と能力に合わせて学習していただきたい。

■学習計画のポイント

教材の構成と流れは意図的に順序だてられている。意識の喚起と活性化をねらいとした「知っていることを話そう」では、簡単な作文をしてみるのもよいであろう。資料は新聞、雑誌、随筆、グラフ、イラストなど多方面からのアプローチがなされているので丁寧に読解してほしい。テーマは独立しているので初めから順番に行う必要はないが、広範な資料に触れられるメリットを生かして、全テーマにあたること。「知っていることを話そう」—「ここから考えよう」と学習を進めながら語彙・文型を習得していくことが効率のよい学習計画ポイントである。

■学習上の留意点

はじめから振り仮名付を読むのではなく、出来る限り振り仮名のない文に挑戦していただきたい。本教材では資料としてイラストやグラフ、図が多用されている。これらをていねいに読んで理解すること。設問だけを解答していく学習とはまた違った確実な実力養成につながる。

■参考文献

教材の終わりに各課で参考として読むべき「参考図書」リストが付してある。各テーマ最低1冊から2冊は読破してほしい。

科目コード	科目名	単位数
0074	保健体育講義 I	1 単位

教材コード 000395

教材名 保健体育講義 I

著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は体育の役割、文化としてのスポーツ、体育・スポーツの歴史、運動・スポーツと健康、我々を取り巻く環境の5章で構成されているが、いずれも健康という我々にとって最も基本的な権利に直接的・間接的に関わる知識をまとめたものである。

■学習計画のポイント

- ① 教育の中に体育が位置づけられているかを、我々個人個人が持っている欲求、社会が我々に何を望んでいるか、そして実際に体育ではどのようなことが経験できるのかについて理解し、体育の必要性についての認識を高める。
- ② 体育活動で中心的な位置にあるスポーツとはどのような特徴を持って、我々の文化として位置づけられてきたかについて理解することによって、スポーツに接する楽しさの認識を高める。
- ③ 体育が歴史の中でどのように位置づけられてきたかについて理解することは、体育の教育的価値を認識してもらうために必要な知識といえる。
- ④ 運動は我々にとって必要な活動であるが、多くの効果が期待されるとともに、無知な行動がむしろマイナスに働くこともある。適度な運動、健康管理とはどのようなことに気をつける必要があるかを理解することは、人生のどの時点でも必要な運動についての正しい認識を持つことが前提となる。
- ⑤ よりよい環境で健康的な生活を行うことは、誰もが望むところである。我々を取り巻く環境についての理解を深め、対応の仕方を学ぶことは不可欠である。特に文明の恩恵にあずかっている現代だからこそ、ますます必要となってきた知識といえる。

■学習上の留意点

5つの章が目指すことは、単なる知識に留まらず、それらの知識を土台とした運動の実践、健康の管理であることを強調しておく。

■参考文献

特になし。

科目コード	科目名	単位数
0075	保健体育講義Ⅱ	1単位

教材コード 000037

教材名 保健体育講義Ⅱ

著者名等 吉本 俊明

■教材の概要

本書は、健康が生涯のテーマであるという観点に立って、レジャー・レクリエーション、体力づくり運動とスポーツ振興、体力の維持・増進とトレーニング、運動技能の向上という内容でまとめている。

いずれも、生涯にわたって、どのように運動・スポーツと関わっていくべきかという立場からまとめたもので、実践をともなう知識となることを期待したものである。

■学習計画のポイント

- ① 労働時間の短縮によってできた「ゆとりの時間」をいかに有効に過ごすべきかという観点から、広い視野に立った自由時間の過ごし方について理解する必要がある。
- ② 恵まれた物質文明の中で問題となってきた身体運動の必要性について、国内外の公的機関が、どのような働きかけをしているかについて理解する必要がある。
- ③ 体力の維持・増進は、健康的な日常生活を過ごすために重要であることを理解し、実践に結びつける必要がある。
- ④ 得意なものは、興味もわき、自主的な行動に結びつくという観点に立って、運動技能の上達法を理解する必要がある。

■学習上の留意点

健康的な生活は、規則正しい生活を基盤とした上で、適度な運動をすることによって、形成される。したがって、知識を実践に結びつけて理解する努力をして欲しい。

■参考文献

- ※『国民の健康・体力つくりの現況』体力つくり国民会議事務局、総務庁青少年対策本部編（大蔵省印刷局）
- 『レクリエーション活動の実際』池田勝他編（杏林書院）
- ※『トレーニングの科学的基礎』宮下充正著（ブックハウス・エイテディ）